

平成30年度 施政方針

平成30年3月定例市議会の開会に当たり、平成30年度に臨む、施政の基本方針を申し上げ、市民の皆様、並びに議員各位のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

北陸新幹線飯山駅の開業から4年目を迎えようとするなか、観光客や人口動態にも新たな動きが出るなど、開業の効果が着実に現れてきております。

中央を流れる千曲川、四季折々のふるさとの原風景が今なお残る自然景観、豊富な雪、雪まつり、かまくら祭など飯山市固有の地域資源が国内や外国の方々の目に留まり、新幹線利用の多くの旅行者が訪れております。

また、若者の定住促進や移住希望者の受入れ等のため、賃貸住宅の整備や空家バンクの開設、情報発信の強化もまた、引き続き進めているところです。首都圏や関西圏などへの時間的距離が飛躍的に短縮されたことで、飯山市がより身近に感じていただけるようになり、移住先としての魅力も高まり、市内へ移住する人も増加してきております。

引き続き、様々な施策を通じた交流人口の拡大を図るなかで、情報発信を行い「地域経済の活性化」を図ってまいります。

本年度は、今後5年間の市政運営の基本となる飯山市第5次総合計画後期基本計画の初年度であります。この計画は、前期基本計画期間中の取り組みの総括と課題の整理を行い、基本構想審議会にご審議をいただきその答申を受け策定したものであり、基本構想に掲げる将来都市像『自然と共生する豊かな暮らし「技と縁のまち 飯山」』の実現を先導するものとして「いいやまづくり」重点目標を定めております。市民、市外の方から、住みたい・訪れたいと思われる魅力あふれる飯山市をつくるため、市民の皆様とともに多様な活動主体の参画による「いいやまづくり」を進めてまいりたいと考えております。

ここで、市政を取り巻く国や県の状況等を申し上げ、ご理解を賜りたいと存じます。

昨年12月時点の国の経済見通しでは、雇用・所得環境の改善が続く中、各種政策の効果もあって景気は緩やかに回復し、引き続き平成30年度においても、経済の好循環が更に進展する中で、民需を中心とした景気回復と、物価のデフレ脱却への前進が見込まれるとし、民間企業設備投資の増加などにより国内総生産の実質成長率は1.8%程度の上昇、名目成長率は2.5%程度の上昇と見込まれております。

国の新年度予算案は、97兆7,128億円、前年度当初と比べ2,581億円、0.3%増の予算規模となったところです。「経済・財政再生計画」の集中改革期間

の最終年度の予算として、歳出では、人づくり改革や生産性改革をはじめとする重要課題を重点化し、社会保障関係費を4,997億円増額する一方、歳入では税収の増を1兆3,670億円と見込んでおります。また、新規国債発行額は前年度から6,776億円の減額とし、公債依存度は34.5%と前年度当初と比較すると0.8ポイント減少しております。しかしながら、平成30年度末の公債残高の見込みは約883兆円、国民1人当たりでは約700万円と見込まれ、借金が増加している状況に変わりはないところです。

長野県にあっては、平成30年度が初年度で県政運営の基本となる、「しあわせ信州創造プラン2.0」に掲げる政策推進の基本方針に基づく予算編成となっております。国の補正予算に対応し2月補正予算と一体的に編成した結果、前年度比49億円、0.6%の増となっておりますが、社会保障関係費の増加などもあり、財政調整のための基金の取り崩しにより対応をしております。

このような状況の下、飯山市における財政は、引き続き厳しい状況に変わりはありませんが、市民サービスに直結する施策の推進のために行財政改革の推進を図りつつ、効率的で質の高い行政運営・長期的に安定した財政運営に向けた取り組みを引き続き進めて行かなければなりません。

市民各位、議員各位のご理解ご協力をお願い申し上げます。

それでは、平成 30 年度予算の特徴と、施策の概要を申し上げます。

予算総額は、一般会計で 134 億 8 千万円、前年度比 7 千万円、0.5%の増であります。歳入では、市税を前年度同額の 24 億円、地方交付税を前年度より 2 千万円増の 46 億 4 千万円計上し、ふるさと納税などの基金の活用、市債等で歳入確保をいたしました。歳出につきましては、後期基本計画のテーマ「北陸新幹線飯山駅を活用した観光交流人口増、地域産業の創出と育成そして移住人口、若者定住人口増へ」に向けた、市民、市外の方から「住みたい」「訪れたい」と思われる魅力あふれる飯山市をつくるための施策に対し、予算の重点配分を行ったところです。

以下、平成 30 年度の重点施策に関わる事業について後期基本計画の「いいやまづくり」重点目標の 4 つの柱に沿ってご説明を申し上げます。

一つ目は、「仕事と子育てのまるごと応援で若者の住みたくなるまちづくり」についてです。

全国的に人口が減少する中、飯山市における人口の社会動態は平成 28 年が 275 人の減、平成 29 年が 139 人の減であり、減少者数が半減いたしました。各種の施策が成果として徐々に現れつつあり、引き続き、最も重要な政策課題として取り組んでまいります。

若者世代に向けた移住・定住の促進を図るために、移住定住促進住宅（サンコーポラス飯山）での15世帯分の住戸リフォームと入居1世帯あたり2台分の駐車スペースを確保するための駐車場整備を行うとともに、新たに上新田住宅団地に戸建ての若者住宅を平成30年度からの2か年で6戸の整備をいたします。そのうち今年度は3戸の建設を行うとともに、民間の力を借りながら「住まい」を確保する方策なども検討してまいります。また、引き続き移住を考えている皆様に向けたセミナー・相談会や現地見学ツアーなどの開催、各種媒体を使つてのPRを行うとともに、移住者の方に対する住宅取得や既存の空き家の活用に対する支援を行いIターン・Uターンの促進を図ってまいります。

定住の推進についても、引き続き三世代が同居するための住宅の新築・増築等に対する補助を行うとともに、若者の市内での生活を応援するため、市内企業に就職する新卒者の奨学金返済の補助やJR飯山線による通勤に対する支援に、新たに新幹線通勤に対する補助を創設いたします。

子育て支援体制の充実に向けては、子育て支援の拠点施設として整備した飯山市子ども館に、子育て等の相談及び児童センター・児童クラブ・子育て支援センター・病後児保育・放課後等デイサービスの機能を盛り込み、子育て環境を更に充実させ、若い世代の子育て支援と次世代を担う子どもたちの成長の応援を行い、子育てに関する総合的な支援を進めてまいります。

二つ目は、「自然環境と高速交通網を活用した産業を育成するまちづくり」についてです。

今ある観光資源を活用した、人が回遊・滞在するまちづくりと、ツアーやアクティビティの開発、ホスピタリティ向上の推進による交流人口増加の実現を図ってまいります。

新幹線が開通したことによる都市部からの交通利便性について積極的なPRを行い、飯山駅前の市有地等を活用した商業施設やホテル等の誘致を実現するとともに、駅前のにぎわいづくりと観光等の拠点づくりに対する支援を行ってまいります。駅に降りるお客様を、駅前から市街地へと誘導するため、寺社由来サイン・広小路・飯山城址の整備等を順次進め、寺巡り遊歩道についても新たに整備計画を策定し、交流人口の増加・賑わいの創出を推進してまいります。

広域連携の充実・国際観光地化に向けて、豪州・アジア諸国など海外への誘客宣伝活動や様々な情報発信を行うとともに、宿泊事業者等が行う外国人の泊まりやすい施設改修への支援に加えて、新たにアウトドアスポーツイベントや健康志向の旅行商品化を図るヘルスツーリズム事業を展開し、インバウンドを推進するとともに、豊かな自然環境を活かしたアクティビティイベント等の開催や、企業から旅行商品開発の専門知識を有する「地域おこし企業人」の派遣による、「体験・滞在型」観光旅行商品の造成等を、引き続き進めてまいります。

また、地域農業の振興を目指す上で、その拠点のひとつとなる道の駅「花の駅千曲川」については、駐車場整備とともに店舗・休憩施設の拡張計画の具現化を図り、地域農業の販売戦略を強化します。また、新たにそば生産者等による6次産業化・生産体制の整備に対して支援を行い、農業と観光産業のコラボレーションに向けた取り組みを促進してまいります。

三つ目は、「防災体制と医療介護体制の充実で親も子どもも安心できるまちづくり」についてです。

医療・介護と子育てや、雪のある生活に対する不安や負担などに対応し、引き続き安心して住むことのできる地域づくりを進めたいと考えています。

自然災害等に対する防災体制の強化、高齢者が安心して暮らせる環境整備に向け、既設の防災行政無線の更新に合わせて、新たな情報伝達システムの構築を今年度行い、平成32年度までを目途とし整備を行います。また、J-ALERTの新型受信機の導入を行い、非常時の伝達情報の充実・所要時間の短縮を図ってまいります。平成29年度に開始いたしました高齢者等の玄関先の除雪支援についても事業初年度の検証等を行い、引き続き実施してまいります。

子どもを安心して産み育てることができる環境整備に向けて、新たに妊産婦の医療費に対する支援を創設するとともに、子育て世代包括支援センターを設置し、妊産婦乳幼児の健康増進及び保持に関する支援など妊娠期から子

育て期にわたる切れ目のない支援の充実を図ります。また、飯山市においては悪性新生物のうち胃がんや大腸がんの死亡率、死亡割合が県平均より高いことから、地域中核医療機関の機能充実に向けた支援を継続するとともに、現在行っておりますピロリ菌検査に対する補助に加え、飯山赤十字病院の行う胃がん・消化器がん撲滅に向けた事業に対しても支援を行います。

四つ目は、「ICT教育と国際交流を通じて生きていく力と郷土愛を育成するまちづくり」についてです。

ICT教育と学力向上・国際交流（英語教育等）の推進に向け、小中学校へタブレットPCや大型提示装置の整備を行います。ICTを活用した授業展開による、グローバルに活躍できる児童・生徒の情報活用能力の育成を推進するとともに、今後の小学校の英語の教科化に備え、新たに英語指導主事の1名雇用と現在小学校に2人いる外国語指導助手（ALT）を7月から4人に増員いたします。また、郷土愛・ふるさと教育を推進するため、新たに高校生が提案する飯山市を考え活性化させるための事業に対する支援を行い、未来を担う若者の活動を応援いたします。

以上、平成30年度の重点施策の概要を申し上げましたが、その他の主な施策としては後期基本計画の施策体系に合わせてご説明申し上げます。

一つ目は、自然共生による新しい価値観の発信についてです。

産業・組織・人・地域といった様々な分野における連携を通じ、飯山市の魅力向上と産業の振興を図ってまいります。

農・福連携推進事業（プロジェクトいいやま）により農業と福祉が連携した障害者就労継続A型事業所が開設され事業展開をしております。引き続き、障がい者の自立促進及び農地の有効活用に向け支援を行うとともに、「農・商・工」の連携だけでなく、起業支援センター「あすちやれ」における首都圏からのIT事業者の呼び込みや、創業・起業者や商品開発に対する支援、地域事業者との連携などを引き続き図ってまいります。

また、遊休農地利用及び地域活性化推進のため、東小学校周辺の菜の花の里づくり及び菜の花まつりの開催支援を行うとともに、地方創生交付金を活用して、会場である菜の花公園をさらなる地域経済の活性化の場へとつなげていく事業を行ってまいります。

自然との共生に向け、「克雪・利雪・自然エネルギー」については、雪下ろしに係る労力の軽減や転落事故等の防止のため、住宅屋根の融雪化や落雪化工事に対する補助や、弱者世帯にかかる住宅除雪費用を助成し負担の軽減を図ります。また、新たな産業の創出につながる可能性を持つ飯山の自然の持つエネルギー（水・雪等）の利活用の研究を推進いたします。

二つ目は、飯山の四季の美しさを活用したまちづくりについてです。

豊かな自然と調和した信州の北の玄関口として飯山駅周辺などの整備を行うとともに、歴史と自然に彩られたまちづくりを進めてまいります。

「まちの玄関・まちづくり・土地利用」については、国の交付金などを活用する中で進めている駅西線整備について、30年度内での完成を目指します。また、社会情勢や都市環境が常に変化するなか、持続可能な都市構造の構築が求められています。都市計画マスタープランの見直しと並行し、立地適正化計画の策定に着手いたします。

三つ目は、高速交通網による交流の促進についてです。

多彩な観光資源と文化を持つ信越9市町村のエリア「信越自然郷」を、世界水準の滞在型観光地、世界中から顧客を呼べる観光リゾート地とすることをめざし広域観光連携を推進してまいります。

市民一人ひとりが飯山市の観光資源に触れ、その魅力を感じることで自信をもってPRできる観光地づくりを進めるとともに、姉妹都市・観光交流都市・友好都市・災害応援協定都市等との連携や市民・民間交流を推進し、あわせて瑞穂地区の歴史的文化財等を活用した観光地づくり、千曲川の広域利用による観光振興を図ってまいります。

四つ目は、地域産業おこしと若者定住についてです。

自然に育まれた様々な素材や資源を活かせる産業の活性化を図るため、産業の中心的存在である農業分野については、「農業振興計画」に基づいた生産向上事業、農地荒廃対策事業、担い手育成事業を推進し、地域農業の再生・活性化に向けた取り組みを行い、若者定住については、仕事・住まい・子育てに関する情報を一元化した力強い発信を行うとともに、施設等の整備についても官民一体となった推進を図ってまいります。

五つ目は、たくましさや郷土愛を育てる教育についてです。

子どもたちが将来自分の道を自由に選択するためには、学力・体力と国際感覚、ICTなど新しい時代に生きる力を身につけることが必要です。小学校における小規模校のメリットを活かしながらも、今後の学校適正規模の検討は非常に重要なことであり、教育環境と教育施設の充実・検討を引き続き進めてまいります。

生涯学習については、人づくり・地域づくりの観点からも重要な場となっています。推進体制を更に整えるとともに、開館以来非常に大勢の皆様にご活用いただいている「なちゅら」をはじめとする各施設における、市民の芸術文化やにぎわい・交流活動を一層促進してまいります。

また、老朽化する施設等については、現状や課題を整理しながら計画的に管理・補修等を進めてまいります。今年度は市民体育館の耐震改修に向けた

設計を行うとともに、2021年開催予定の第70回全国高等学校総合スキー体育大会に向けても計画的な施設・設備等の整備とあわせて地元選手の強化を図ってまいります。

六つ目は、子どもから高齢者まで安心して暮らせるまちについてです。

全国的に少子高齢化が続く中、いつまでも健康で安心して暮らせることは社会全体の願いです。子どもを産み育てられる環境づくり、年代に応じた健康づくりや介護予防とともに、防災対策も備えを万全なものとするよう取り組んでまいります。

現在、各区で管理を行っている街灯のLED化に対する支援を行っているところですが、市で所有する街灯についても民間の活力を活用してLED化を進めてまいります。情報発信についても、ケーブルテレビ、インターネット機器や、気象観測装置の計画的な更新を行うとともに、主要施設等へのWi-Fi環境の整備を順次行ってまいります。

また、供用開始から長年経過した城山雨水排水ポンプ場について、今後計画的に抜本的な改修を行ってまいります。今年度においては、耐震診断等を行うとともに1号機ポンプエンジンの更新を行い、市街地の内水排除対策を進めてまいります。

社会が成熟への歩みを進めるなかで、行政の果たす役割も適切な見直しが必要

必要です。新たな行財政改革プランの策定と実践による、効率的で質の高い行政運営に努めてまいります。また、全国からご協力をいただいております、ふるさと寄付金事業についても、平成30年度において10億円の寄付金を見込んでいるところです。市内の特産品等の活性化にも大きく寄与することから、市内団体・企業・事業者等の経済振興対策と市財政の安定化に向けて、引き続き事業の推進を図ってまいります。

以上、施策の概要について申し上げます。

最後になりますが、先に申し上げたとおり、飯山市第5次総合計画後期基本計画の初年度となります。計画のテーマ「北陸新幹線飯山駅を活用した観光交流人口の増、地域産業の創出と育成　そして移住人口、若者の定住人口増へ」の実現を目指し全力で取り組んでまいり所存でありますので、市民の皆様の一層のご協力をお願いするとともに、議員各位のご支援ご協力を心よりお願い申し上げます。

平成 30 年 2 月

飯 山 市 長 足 立 正 則